

## I

5

10

15

20

25

5 中世都市の「封鎖的な面」とは、都市が神聖ローマ皇帝から特許状を得て封建支配から自立し、周囲の農村も従えた自給自足的な経済圏と、市壁や都市法によって区画された独自の法域を形成したことが挙げられる。農業生産の拡大で生じた余剰を交換する定期市から発展した都市では、分業のもと商人が商人ギルド、手工業者が同職ギルドを形成して自由競争を禁じた。中世都市の「開放的な面」とは、リューベックを盟主とするハンザ同盟に見られるように、都市間で協約を結び、北海・バルト海

10 一帯に交易圏を形成したことが挙げられる。ハンザ同盟はロンドンやブリュージュなどに在外商館を設け、毛織物・海産物などを取引する遠隔地商業を展開した。またアウクスブルクは地中海商業圏に銀を供給し、南北を結ぶ内陸中継貿易の拠点となった。中世都市は地域社会の

15 中心となるとともに遠隔地商業の拠点となる両面性を持ち、ヨーロッパ全域にまたがる経済圏の形成を促した。

## II

5

10

15

20

25

フランス革命の影響で、黒人共和国ハイチが独立した。  
13 植民地の喪失を受け、重商主義から自由貿易主義に転  
じたイギリスは、19世紀前半に奴隷貿易と奴隷制を廃止  
し、独立を支援したラテンアメリカ諸国にも奴隷制廃止  
5 を迫った。アメリカ合衆国は南北戦争を経て奴隷制を廃  
止した。帝国主義諸国は奴隷貿易の禁止を口実にアフリ  
カ分割を行い、奴隷制を廃止した。しかしハイチはウィ  
ーン体制下の各国の承認を得られず、輸出品の販路を失  
い、フランスへの賠償金の負担もあって、西半球の最貧  
10 国となった。イギリス植民地の黒人の多くは低賃金の農  
場労働者となった。アメリカ南部の黒人は、シェアクロ  
ッパ制の下で地主に収穫の多くを収奪される小作人と  
して経済的に隷属し、州法により参政権を剥奪され、ジ  
ム＝クロウ法による分離差別を受けた。アフリカの人々  
15 は、従属経済の下での困難な生活を強要された。各地の  
黒人は白人の都合の下に置かれていたのである。

III

5 10 15 20 25

5 唐の滅亡に伴い、朝貢・冊封秩序が動揺した。ベトナム北部は中国支配から自立し、唐から冊封を受けた南詔に代わり雲南では大理が成立した一方、朝鮮半島では新羅が高麗に滅ぼされた。北方では皇帝を称した契丹が台頭して渤海を滅ぼし、五代の後晋から燕雲十六州を獲得した。遼を称した契丹は、五代十国を経て中国を再統一した北宋と澶淵の盟を結び、歳幣を受けた。その後、中国東北地方に成立した金に北宋は滅ぼされ、江南に南宋が成立するなど、唐滅亡後の中国は北方の勢力に圧倒された。

10 唐末五代に中国では貴族が衰え新興地主層の形勢戸が台頭した。武断政治に代わり宋代には文治主義がとられ、科挙を通じて非世襲の士大夫階級が形成され皇帝独裁を支えた。冊封下の高麗では両班が形成され文官が優位であったが、やがて武人政権が成立した。日本では貴族による摂関政治が続いていたが、律令体制が崩壊するなかで武士が台頭し、鎌倉幕府が成立した。

15